

Fauré Requiem

松下 耕 今、ここに
千原 英喜 よもすがら
木下 牧子 祝福 他
～珠玉の平成合唱曲選～

木下 牧子 鷗

シューベルト Deutsche Messe
フォーレ Requiem

オルガン 桑山 彩子
バリトン 野本 立人
ソプラノ 栢森 千紘
指揮 栢森 和重
(当団 常任指揮者)

第13回 定期演奏会

合唱団
Rinte

2020.7.12 (sun)

13:30 開場 / 14:00 開演

なら100年会館 中ホール

主催 合唱団Rinte
後援 奈良市教育委員会 木津川市教育委員会 精華町教育委員会 株式会社 KCN京都
連絡先 HP:<http://rinte-myheart.com>
チケット取扱所 なら100年会館(0742-34-0111)

▼HPにQRコード



入場料

前売1500円
(当日1700円)
高校生以下
500円

2年にわたってオールアカペラプログラムに取り組んできた合唱団Rinteが、ソリストを迎えて、シューベルトとフォーレの大作をオルガニストと演奏します。

前半は平成時代の珠玉の合唱曲を演奏します。

オーケストラは「今、ここ」、合唱指揮者として国際的に活躍する作曲家松本下緒が2011年に起きた東日本大震災の復興を祈念し、Sing for Japanに寄贈した曲。「風のまち」は関西を拠点として活躍する石若雅弥の作品。歩いていくときと口ずさんでしまうような、爽やかなメロディで、2016年に合唱団Rinteが無伴奏版を初演。「夜もくらは」は大阪音楽大学作曲科教授の千原美喜による作品で、鴨長明「方丈記」をテキストとした作品の第3曲。「祝福」は木下敦子の説声合唱組曲「チヨの夜の歌」の第1曲で、チキスは、池澤夏樹の詩集「嵐の道」より選ばれています。「前へ」はKen-Pと佐藤賢太郎の作品で、東日本大震災後、東日本大震災の被災者を応援する「歌おNIPPON」プロジェクトに提供された曲。詩も作曲者佐藤賢太郎による。

「卒業」は新実徳美の「白いうた青いうた」中の曲を混声4部合唱に編曲したもので、再び木下敦子の「嵐」をオルガンと演奏する。繰り返し表現されている「ついに自由は彼らのものだ」という言葉に、強い祈りを感じます。

シューベルトといえば、音楽室でベートーベンの隣あたりに隠やかな表情でいたおなじみの存在ではないでしょうか。未完成交響曲は世界中の

オーケストラの大切なレパートリーであり、小学校の音楽の授業では「魔王」をじっくり観賞して、歌曲王として紹介される天才の一人です。シューベルトは多くの優れたドイツ歌曲（リート）を残し、ロマン派音楽の扉を開いていきました。敬虔なカトリック教徒であったシューベルトは6曲のミサ曲とレクイエム、そして、今回演奏するドイツ語ミサ曲（Deutsche Messe）を作曲しています。1965年までカトリック教会の正式な典礼はラテン語でおこなわれていたので、可憐なラテン語に合わせようとして歌えるドイツ語によるミサ曲を作ったと考えられています。このミサ曲はよほどの人が演奏できるものとなっていて、ソロもなし、賛美歌様式によって書かれています。

モーツァルト、ヴェルディ、フォーレのレクイエムは、三大レクイエムと呼ばれます。フォーレのレクイエムは中でも最も穏やかで天国のような美しさをたたえた傑作と評価されています。作曲の動機は父母の死にあると説が見られる一方、フォーレが「私のレクイエムは何のために書かれたわけでもありません。あえて言えば楽しむのために」と述べたことを紹介するものもあります。いづれにしても、直接のきっかけではないにせよ、両親が他界するという出来事が無関係ではないでしょう。1888年の初演時に演奏されたのは第1、第3-5、第7の5曲で、リオン独唱を持つ第2曲（オフェルリウム）と第6曲（リベラ）を加えた7曲が演奏されたのが1933年でした。完成した曲が1900年のワリワ博の機会に演奏され、翌1901年に出版されました。

Profile



Orgão 桑山 彩子 Ayako Kuwayama

エリザベト音楽大学卒業、同大学大学院修了。2000年より渡仏、リヨン国立高等音楽院を審査員満場一致のブルミアプリを得て首席で卒業。高等音楽学国家免許を取得。リヨンを中心にトゥールーズ、ルービエなどフランス各地で演奏会を行っているほか、アレクサンデル（オランダ）、フライベルク、ドレスデン、(ドイツ)など、各地の歴史的オルガンによる演奏会に招かれる。第6回ゴットフリート・ジルバーマン国際オルガンコンクール優勝。2008年度、京都市芸術新人賞受賞。オルガンに山崎陽子、ジャン・ポワイエ、リーズ・バス・シュルンベルジュ、ルイ・ロビヤール 各氏に師事。京都カトリック河原町教会オルガニスト、日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員。エリザベト音楽大学非常勤講師。

Brilone 野本 立人 Tatsuhito Nomoto



東京藝術大学声楽科卒業。同大学院修士課程修了。声楽を伊藤亘行、原田茂生、多田顯道夫、羽根功二、ドイツリトの各氏に師事。指揮者を黒岩英臣の各氏に師事。主なコンサート歌手として活躍。宗教作品やドイツリート、日本歌曲を得意としている。また合唱指揮者としても多彩な活動を行っている。NHK全国学校音楽コンクール課題曲「手紙」（アンジュエアキ）、「YELL」（いきものがかり）等を放送初演。2011年にTVOCD「花〜わたしたちのうた〜」をリリース。第18回少年合唱団音楽監督。JCD日本合唱指揮者協会会員。21世紀の合唱を考える会 合唱人集団J 副代表幹事。兵庫教育大学大学院准教授。



Soprano 栢森 千紜 Chihiro Kayamori

大阪教育大学大学院教育学研究科音楽教育専攻声楽コース修了。歌劇「ロジ・ファン・トゥット」フィオレデリージ、「こうもり」ロザリンデ、「ハゼセルとグレートル」グレートル等を演じる。2015年、アジア太平洋青年合唱団の日本代表としてミラノ・マカにて合唱音楽の研鑽を積み、ミラノ万国博覧会や世界合唱博覧会等に演奏する。第18回大阪国際音楽コンクール歌曲部門入選。声楽を長谷川豊子、寺尾正、日下部祐子の各氏に師事。Japan Chamber Choir団員、Ensemble Musicus正団員、神戸フォーレ協会会員、関西歌劇団団員。

Conductor

栢森 和重 kayamori Kazushige



全日本合唱コンクール連続金賞など全国的に注目を集めてきた合唱団「うたおに」の指揮者（1989-1997）。現在、Ensemble Clair Kyoto（京都市）音楽監督・指揮者、Ensemble Kiika（岐阜市）指揮者、混声合唱団マンダラー（名張市）指揮者。また、オペラやオーケストラ、吹奏楽、多くの合唱団の演奏会の客演指揮者やコンクール審査員、指揮法講習会の講師なども務める。指揮法を小泉ひろし氏、合唱指導法・指揮法を羽根功二氏に師事。三重大学大学院准教授。

合唱団Rinte



1996年2月結成。アカペラでの演奏を活動の中心に据えている。月2回の練習に近隣を中心に大阪、京都、三重などからも、木津に集まってくる。結成以来、栢森和重が常任指揮者を務める。

私たち合唱団Rinteは、合唱の本当のおもしろさを探って「これが合唱」「これこそ合唱」と言われるような魅力的で美しい作品を歌っています。私たちが、練習の中で楽しみながら見つけたしたり、感じあったり、大切にしていた声か織りなす世界を「合唱」という表現スタイルをととして、私たちが歌を聴いてくださるみなさんと共感しながら、より多くのみなさんにひろげていきたいと活動しています。